

○松下議長 通告1番目、13番、福山晴美議員、総括方式で質問を願います。

福山晴美議員。

○福山議員 皆さん、おはようございます。13番議席、福山晴美です。議長のお許しを得ましたので、通告に従い一般質問をさせていただきます。

今回は、国体リハーサル大会についてと高齢化社会の施策について、2点質問します。

まず、国体リハーサル大会についてであります。

昨年12月の議会で、国体開催に向けて「おもてなしの取り組み」と「市民との協働」という視点から一般質問させていただきました。本大会については、いよいよ来年に迫ってきましたが、ことしは3競技のリハーサル大会を開催する予定と聞いていますので、今議会では、リハーサル大会をどのような大会と位置づけているのか、また、開催に向けての準備の進みぐあいについてお聞きしたいと思います。

5月24日の土曜日、25日の日曜日の2日間、リハーサル大会のトップを切って、九度山町でなぎなたの大会が開催されたと思いますが、聞くところによると、観客も少なく、もう一つ盛り上がり欠けてたと聞いています。市民総参加で臨みたい国体です。岩出市に他府県から大勢の方がお越しになります。岩出市を知っていただくのに絶好のチャンスです。岩出市ならではのおもてなしで本番に臨めるよう、まず、リハーサル国体を成功させていただきたいです。市民総参加は、ボランティアで参加するのもよし、各会場に1人でも多くの方が足を運び、競技を応援していただくのもとても大事です。市民の皆様にご協力いただき、盛り上げていただきたいものです。

そこで、まず1点目は、開催に向けた準備状況についてお聞きします。

リハーサル大会の競技日程とあわせて、リハーサル大会の目的や位置づけをどう考えているのか。また、準備は着々と進められていると思いますが、円滑な運営に向けて、どのような準備を進めているのか、具体的にお聞きしたいと思います。

次に、2点目のリハーサル大会での注意点についてであります。リハーサルということは、本大会に向けての準備の大会だと思います。リハーサル大会を開催するに当たって、どういった視点を持って開催する方針なのか、また、どういった点について注意していくのか、考えてることがあればお答えください。

次に、高齢化社会の施策について質問します。

近年、ますます高齢化が進んでいく社会の中で、いろいろと取り組まなければいけない問題点が浮かび上がってきています。高齢者のひとり暮らし、高齢者夫婦世

帯の増加、認知機能低下等が原因で招く深刻な問題が、新聞や各メディアで大きく取り上げられて、見聞きするたびに心が痛み、早急な対策が必要と感じています。

地域福祉活動に参加させていただいているのですが、その会場に来られた高齢者の方たちは、大きい声で笑ったり、歌を歌ったり、ゲームをして頭を使ったり、ラジオ体操や踊りなどで体を動かしたり、その日のメニューで楽しい時間を過ごされています。毎回楽しみにしてるんやで、いろいろ教えてくれてほんま楽しい、第1回目から参加してるんよ、おもしろいよとか、また、こんなの家のもっと近くにあったらええと思てんねんけど、そんな話も聞かれます。

このように、高齢者といっても、私の周りの人たちはとてもお元気で活発に活動されている方々も多くて、私も元気をいただいているんですけども、こうして足を運んでくださる人たちはいいのですが、定年をされて、家の中に入ってしまいがちになり、外に出るチャンスを失っているケースもあるのではと思います。というのは、ここに参加される方は、女性の方が大変多くて、男性の方は非常に少ないのです。積極的に外に出て人に会い、言葉を交わし、人とかかわり、地域とかかわる機会を、そんな場所をつくってあげる、見つけてあげることがとても大切です。地域が地域を支え、人と人が支え合うことが、これからますます必要となっていきます。

また、最近、認知症の方が増加していることも、深刻な社会問題となってきています。認知症は、誰もがかかる可能性がある病気とされています。早期発見ができればいいのですが、難しいケースも多くあると聞きます。家庭も、周囲の人も、認知症という病気を理解し、早期に発見して治療ができるのかが、本当に大事なポイントなんですけれども、大変難しいと言われていています。認知症の方はもちろんのことですが、その家族の方も含めて、支えていく必要があると思います。というのは、家族の中の人認知症になって、恥ずかしいから相談もできないと考えて苦しむ家族の方たちがあるようです。

それとまた、高齢者のひとり住まいの方、高齢者夫婦2人住まいも、とっても心配です。その人たちの身の回りのことを少しでも知ることが必要だと思うのです。どこにどういう人がいるのか、どういう状況の中で生活をしているのか気づいて、ご近所の方たちの協力を得ることはとても大事です。本当に高齢化が進むということは、社会にさまざまな問題が数多く出てきます。誰もが安心して生活ができるように、地域と地域、人と人が相互に支え、相互に助け合える社会にしていくことが、非常に求められていることが本当に大事になってきています。

そこで質問します。

1点目は、市の高齢者世帯や認知高齢者の現状は。

2点目に、高齢者が、住みなれた地域で安心して生活できる環境づくりをどのように考えているのか。

以上、お願いします。

○松下議長 ただいまの質問に対する市当局の答弁を求めます。

公室長。

○湯川市長公室長 おはようございます。

福山議員の国体リハーサル大会についてのご質問にお答えいたします。

1点目の開催に向けた準備状況について、まず、リハーサル大会の開催日程ですが、ハンドボール競技は、8月9日、10日の2日間、市立体育館におきまして、第19回ジャパンオープンハンドボールトーナメントとして開催いたします。

それから、バドミントン競技ですけれども、11月22日から24日までの3日間、市民総合体育館におきまして、バドミントン日本リーグ2014、2部リーグいわで大会として開催いたします。

それから、ボウリング競技は、11月6日から9日までの4日間、紀の川ボウルで内閣総理大臣杯、文部科学大臣杯争奪第43回全国都道府県対抗ボウリング選手権大会として開催いたします。

リハーサル大会の位置づけ、目的としましては、本大会のPRはもちろんのこと、本大会開催への練習の場ということで位置づけをしております、リハーサル大会の開催を通じて、問題点や課題を探り出し、本大会の円滑な運営に反映させていくことを狙いとしております。

次に、準備の具体的状況についてお答えいたします。

まず、会場についてですが、ボウリング競技につきましては、民間施設を借り上げることとなりますので、昨年度から県とともに協議を続けてまいりましたが、紀の川ボウルさんとの協議も整いまして、全面的に協力をいただくことを約束していただいております。

各競技の会場設営につきましては、昨年度から競技団体さんとの協議の上で作成いたしました設計書に基づいて進めてまいります。

それから、啓発事業としましては、5月16日、昨年度、東京の国体でハンドボール競技を開催いたしました東京都墨田区の職員さんをお招きしまして、国体開催に向けた取り組みについての研修会を開催して、職員の意識向上を図ってまいります。市民の皆様への啓発としましては、引き続き、広報いわでや市ウェブサイトにて啓

発を進めるとともに、各種イベントでのPR活動に努めているところでございます。

運営ボランティアにつきましては、広報5月号、また、市ウェブサイトにも募集要項を掲載するとともに、市の各種団体さんのほうにも協力を依頼しているところでございます。福山議員からも、ボランティアの登録をしていただいております。ただ、目標300名ということで設定をしておりますので、友達、お知り合いの方にお声がけをいただけたら幸いです。ご協力よろしくお願いたします。

次に、2点目、リハーサル大会での注意点についてお答えいたします。

準備を進めるに当たりましては、先催県の情報・データ、いろいろと入手して参考にしておりますけれども、開催地によって、施設の大きさや会議室等の整備状況、また、周辺の状況等全て違いますので、岩出市の施設や岩出市の周辺の状況に応じた準備が必要でございます。当然のこととしまして、課題や問題点も先催県とは違う結果になるのかなということで想定してございます。

それから、特に注意する点としましては、選手、監督の動き、観客の動き、おもてなしコーナーなどのあり方、駐車場や輸送のあり方など、会場に来られる方々に快適に過ごしていただける環境整備面、この辺が最も重要になると考えておりますが、おもてなしをする側のボランティアの方々、また、市職員など、効率的、効果的に動けるか、また、来場者に対する対応はどうなのかというようなさまざまな面で、課題や問題点を探り出しまして、本大会に反映させていきたいと考えております。

なお、この墨田区の職員さんから、リハーサル大会の反省点、課題として参考にしていただきたいということでお話がありましたのは、マイナー競技のリハーサル大会は集客が難しく、盛り上がりには欠けること。それから、競技会の運営能力の向上に重点を置くことが重要であること。大会終了後、運営の全てを検証し、課題を改善して、本大会の開催準備に移行すること。この3点とあわせて、競技、それから実施本部、式典の運営分野、おもてなし分野、それぞれの反省点についてもご指導をいただいておりますので、参考にしてまいりたいと考えております。

まずは、8月、ハンドボール競技のリハーサル大会を円滑に運営できるよう、全庁体制で取り組んでまいりますので、議員皆様のご協力、よろしくお願いたします。

○松下議長 生活福祉部長。

○杉原生活福祉部長 おはようございます。

福山議員の一般質問、2番目の高齢者施策についてお答えいたします。

1点目の市の高齢者世帯や認知症高齢者の現状はについてでございますが、本市の65歳以上の高齢者は、平成26年5月末現在、5万3,607人中、1万118人で、高齢化率は18.9%、最近では、平均して1%ずつ増加している現状でございます。

高齢者のみの世帯は、昨年度末で単身者が1,051人、夫婦世帯が1,310世帯となっております。また、認知症高齢者は、介護保険制度における日常生活自立度の判定基準から、認知症状があると判定された方は、平成26年5月末現在822人で、65歳以上の高齢者人口に占める割合は、8.12%でございます。

市では、民生委員児童委員による高齢者世帯把握調査を実施し、各種介護・福祉サービスの内容等説明を行うとともに、必要に応じて見守りを実施し、また、民間の8事業者との間で市への通報等に関する協定を締結するなど、高齢者の見守り体制の強化に努めております。地域包括支援センターにおいては、さまざまな相談を受け付け、関係機関と連携して対応、支援を行っております。

また、認知症対策では、予防教室や各種研修会の開催、認知症高齢者本人及び家族のストレスや介護負担の軽減を図る支援として、認知症家族の交流会の開催、認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を温かく見守り支える応援者をふやす、認知症サポーター養成講座を開催するなど、認知症予防や認知症高齢者とその家族を支援する取り組みを行っているところでございます。

2点目の、高齢者が住みなれた地域で安心して生活できる環境づくりについてでございますが、今後、ますます高齢化が進行し、核家族化により高齢者の単身世帯や夫婦世帯が増加していく傾向にある中、近所づき合いは疎遠となり、地域社会とのかかわりが希薄化するなど、相互扶助機能の低下が憂慮されるところであり、従来、地域の果たしてきた互助の役割が改めて強く求められるものであります。

市といたしましては、高齢者が年齢に捉われず、みずからの責任と能力において、自由に生き生きとした生活を送り、社会とのかかわりを持ち続けながら、常に充実した生活を送ることが重要であると考えており、高齢者の社会参加を促進する活動とあわせて、現在、児童福祉、高齢者福祉、障害福祉など分野ごとの施策を推進しているところでありますが、それぞれの制度の谷間にある対応が困難な問題など地域が抱える課題等を洗い出し、時代の要請に対応できるよう、地域社会を構築する市民みずからが主体的にかかわり、地域において、ともに支え合うという地域福祉を推進するための地域福祉計画の策定に向けた取り組みを進めてまいります。

また、高齢者が認知症や要介護状態になっても、可能な限り住みなれた地域で自分らしく生活が続けられるよう、地域のボランティア、NPO等、関係機関や団体

と連携しながら、高齢者を見守るネットワークの強化や医療、介護、福祉を一体で支える仕組みなど地域包括ケアシステム構築に向けた体制の整備に努めてまいります。

○松下議長 再質問を許します。

福山晴美議員。

○福山議員 認知症サポーター養成講座のことで、ちょっとお聞きします。

先ほども言ったんですけれども、本当に家族が認知症であることを知られたくないと思うのは、社会で本当にまだまだ認知症という病気の理解が広がっていないことが原因かと思われまます。認知症をよく理解することは、これからますます重要となってきます。より多くの方が理解し、助け合っていきたいものです。

そこで、岩出市では、この養成講座はいつごろから始められているのか。どういった場所でその講座を開いてきたのか。どれくらいの方たち、人が受講されたか。また、受講された方たちはどういう感想を持たれたのか。そして、これからもより多くの人たちに理解をしていただくために、受講の機会を数多く広げていってほしいのですが、そのお考えをお聞きしたいと思います。

○松下議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

生活福祉部長。

○杉原生活福祉部長 福山議員の再質問にお答えいたします。

認知症サポーター養成講座についてでございますが、この講座につきましては、平成21年度から実施している事業で、25年度まで毎年度実施してきてございます。主に対象というところでございますが、一般市民を対象としたり、あるいはまた、民生委員、ボランティア団体、介護施設職員、それから民間企業、そういったところの方々を対象として養成を行っているところでございます。

それから、受講されている方なんですけど、平成25年度末までで、延べ450の方に認知症サポーターの養成講座の受講をいただいております。

それから、感想というお話ございました。いろいろと思いはあろうかと思うんですけども、認知症本人の気持ち、あるいはその認知症の方への接し方、話し方について、すごくわかったということで、今後、支援に生かしていきたいなというふうな方のご意見が比較的多いかなというふうに感じてございます。

それから、こういう方々をふやしてはということでございます。地域において、1人でも多く認知症を理解して、支援するサポーターをふやしていくために、これまでは、講座的な形で開催を行ってきまして、要望等ございましたら、こち

らから出向くような出前講座なんかも検討していきたいなど、このように考えてございます。

以上でございます。

○松下議長 以上で福山晴美議員の一般質問を終わります。